

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心掛けていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

今回のテーマ

生徒の主体性を引き出すために、日常的な指導の中でどのような声かけや配慮を行っていますか。

授業で自ら考え、話し合い、表現する機会を設ける

こちらからすぐに解答や結論を示さないように心がけています。少しでも生徒に考えさせるように努めています。

授業の中でできるだけ質問を増やし、生徒が考える機会を多く与えている。

授業中は教師側からの一方通行の説明に終始するのではなく、生徒自身が考える時間を取ったり、周囲の生徒と話し合う機会を設けたりしている。

授業では参加型や問題解決型学習を推進し、能動的学習に努める。授業の中でもそれぞれで考え解決する時間を設けるようにする。

授業で生徒の自発的な発言を促し、失敗や間違いは歓迎されるものであることを繰り返し伝えています。

生徒同士の討論、コミュニケーションの場を増やす。生徒の役割を明確にした上で活動に責任を持たせる。

総合的な学習の時間や学校設定教科「ワールドスタディーズ」などで、自主研究やプレゼンテーションの実践などを行っています。スピーチコンテストなどで自己表現の発表機会を作っています。

理数科の課題研究で、個人の興味関心を大切にし、自分の取り組みたい主題に取り組めるよう配慮しています。

授業で学習内容と実社会との関係を意識する

授業の中で、教材と実生活の中で関連した場面など指摘しながら、少しでも関心が持てるように声かけしています。

授業内容が、過去の経験や現在の生活、将来の職業などにどのようにつながるかを意識して説明している。

地歴・公民科の教員として、今後社会で生きていくためには、社会問題に興味を持ち、解決策を考え実践していくべきだと伝えている。

進路相談や家庭学習を通じ自己を見つめさせる

面談において、将来やりたいこと、そのために進むべき進路、進路実現に必要な学力を考えるように促している。

面談で教科の学習について課題になる点を挙げさせ、それに対する現在の取り組み、どうなりたいかを発言させた上で、具体的な形に落とし込む方法を教科担任に聞きに行かせている。

生徒個人の価値観を明確にするために、あえて議論を投げかけて、自分の意見や意志を見つめ直す面談を行っている。その際には生徒の意見を尊重しつつも、教師の意見を提示して、考えさせるように心がけている。

面談の中で、生徒の興味・関心と学問を結びつける声かけを意識している。

私が自分自身の経験や講演会等で聴いたものから、生徒の内発的動機付けにつながるような内容を選び、声かけをしている。

「やらねばならないこと」に追い回されるのではなく、「やりたいこと」を追いかける生活をしなさいと話す。

面談は、教師が極力話さずに、生徒が話したという気持ちになって帰ってもらおうと思っています。

家庭学習の記録をつけさせ、担任が毎日コメントをつけて返すなど、生徒とのやりとりを通して、生徒自身に自分の学びの振り返りを促しています。

オープンキャンパスや進学相談会に積極的に参加するよう呼びかけている。

本や新聞を読んだり、いろいろな人の話を聞いたり、調べたりして、自分の夢を早く見つけさせるようにしている。

目標の設定、計画の立案をさせる

学年集会や学年通信によって、決して現状だけで自分を判断することなく、短期と長期それぞれの目標設定をさせ、何より実践と継続の重要性を説いている。

授業中や学年集会で、将来への展望を持たせるようにしている。具体的には大学の先に就職があり、必要とされている社会人像を伝え、自ら進んで取り組むことの必要性を伝えている。